

# 博士課程教育リーディングプログラム現地視察報告書(平成25年度)

博士課程教育リーディングプログラム委員会

プログラム名称	文化資源マネージャー養成プログラム	申請大学名	金沢大学
申請大学長名	中村 信一		
プログラム責任者	中村 慎一		
<p>1. 進捗状況概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本プログラムはおおむね計画を着実に実施しており、所要の体制整備を行い、優秀な学生を受け入れて、グローバル人材の養成を確実にスタートさせている。</li> <li>学内措置として全学のグローバル人材育成推進機構内に文化資源マネージャー養成プログラム特区教育センターを設置して、全学的な支援体制を整えている。</li> <li>5名の特任教員(特任教授1名、特任准教授2名、特任助教2名)を新規採用して、国際文化資源学研究センターに配置しており、この研究センターが本プログラムの効率的運営のためのヘッドクォーター的役割を担っている点が高く評価できる。</li> <li>本プログラムは「産」領域との連携が十分になされていない面があったが、すでに世界遺産のデジタル・アーカイブ化に取り組む企業との連携等が検討されている。</li> </ul> <p>2. 意見(改善を要する点、実施した助言等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>当初計画では東アジア協定校(中国、インドネシア、タイ、ベトナムの4大学)から1校1名の推薦入学者選抜で4名の外国人留学生を受け入れ、一般入学者選抜で4名の日本人学生を受け入れる予定であったが、日本人学生は3名の合格に止まっている。今後は学内外における広報を周到に行い、優秀な学生の確保に全力を投入すべきである。</li> <li>東アジア協定校から4名の留学生を受け入れているが、今後協定校以外の外国人留学生の受け入れを検討し、プログラム充実化への配慮を図ることが望ましい。</li> <li>本プログラムは研究科特別プログラムとして専攻横断的に設置され、英語によって教育が行われている。本プログラムは研究科博士前期課程人文学専攻に設置されている文化資源学コースと関連が深く、文化資源学コースは学際総合型プログラムと位置付けられている。その一方で、専門深化型の他コースに所属する学生も本プログラムに入学しており、今後さらに学際総合型としてのカリキュラムの明確化が必要であり、文化資源学の基礎講義が不可欠である。</li> <li>本プログラムはグローバルな視野の下で Cultural Resource Management を実践できるリーダーの養成が目指されており、専門深化を志向する学者養成とは異なる大学院教育に力が入られるべきであり、文化資源の「多文化共用」を可能ならしめる Management 能力の開発に対する教育的配慮が不可欠である。</li> <li>本プログラムでは当初、学生に年間50万円の奨励金を一律に支給する予定であったが、実際には全員に5年間を通じて一人月額14.5万円の奨励金支給が行われている。リーディングプログラム支援期間終了後に入学した学生にも奨励金支給を継続することが望ましい。</li> <li>7名の学生との面談を通して、現時点においてキャリアパスに対する認識が十分ではないことが判明したので、今後キャリア支援体制の充実化を図ることによって、学生たちが早い段階から多様なキャリアパスへの認識を深めることが必要である。</li> </ul>			